

4. 火災の実態

1. 火災の概要

平成22年中の火災は、出火件数2,288件、損害額3,833,391千円、死者数97人、建物焼損床面積54,933㎡、建物焼損表面積11,449㎡、林野焼損面積854a、焼損棟数1,679棟、り災世帯数1,074世帯、り災人員2,664人となった。

(火災の状況)

区分	平成22年 ①	平成21年 ②	対前年増減数 ③=①-②	増減率
出火件数	2,288	2,245	43	1.9
建物火災	1,176	1,197	△21	△1.8
林野火災	64	56	8	14.3
車両火災	240	222	18	8.1
船舶火災	2	3	△1	△33.3
航空機火災	0	2	△2	—
その他火災	806	765	41	5.4
焼損棟数	1,679	1,677	2	0.1
り災世帯数	1,074	1,090	△16	△1.5
り災人員	2,664	2,611	53	2.0
焼損面積				
建物床面積 (㎡)	54,933	45,276	9,657	21.3
建物表面積 (㎡)	11,449	3,984	7,465	187.4
林野 (a)	854	492	362	73.6
損害額 (千円)	3,833,391	4,591,340	△757,949	△16.5
死者 (人)	97	88	9	10.2
負傷者 (人)	289	354	△65	△18.4

※ H7.1.1 から建物焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

また、平成22年中の火災の発生を一日当たりで見ると、出火件数約6.3件、損害額約10,502千円、死者数約0.27人、建物焼損床面積約150.5㎡、建物焼損表面積約31.4㎡、林野焼損面積約2.3a、焼損棟数約4.6棟、り災世帯数約2.9世帯、り災人員約7.3人である。

2. 出火件数

(1) 総出火件数は、2,288件で前年と比べて43件増加している。これを火災種別で見ると次のとおりである。

種別 年	総出火件数	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他
平成22年	2,288件 (100.0%)	1,176件 (51.4%)	64件 (2.8%)	240件 (10.5%)	2件 (0.1%)	0件 (0.0%)	806件 (35.2%)
平成21年	2,245件 (100.0%)	1,197件 (53.3%)	56件 (2.5%)	222件 (9.9%)	3件 (0.1%)	2件 (0.1%)	765件 (34.1%)

- (注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。
 イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
 ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。
 エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
 オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
 カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。

(2) 月別出火件数

出火件数を月別にみると、1月が284件と最も多く、8月245件、9月225件と続いている。

(3) 出火率

出火率（人口1万人当たりの出火件数）をみると県平均約3.7件となっている。

3. 損害額

火災による損害額は3,833,391千円で前年比757,949千円（△16.5%）減少した。また、県民1人当たりでみると約620円（前年約742円）、1日当たりでは約10,502千円（前年約12,579千円）、1件当たりでは約1,675千円（前年約2,045千円）となった。

4. 出火原因

出火件数を出火原因別にみると、次のとおりである。これは例年と同様の傾向である。

総出火件数	放火・放火の疑い	たばこ	こんろ	たき火	火遊び	その他
2,288件	451件 (19.7%)	226件 (9.9%)	210件 (9.2%)	164件 (7.2%)	98件 (4.3%)	1,139件 (49.7%)

※その他には、上記以外の出火原因21区分及び不明・調査中を含む

5. 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は97人、負傷者は289人で、前年に比べて死者は9人増加（前年比10.2%増）し、負傷者は65人減少（前年比18.4%減）した。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別でみると建物火災による死者が68人、負傷者250人でそれぞれ全体の70.1%、86.5%と大部分を占めている。また、林野火災による死者が1人、負傷者は5人（1.0%、1.7%）、車両火災による死者が9人、負傷者は14人（9.3%、4.8%）、船舶火災による死者が0人、負傷者は0人（0%、0%）、航空機火災による死者が0人、負傷者は0人（0%、0%）、その他火災による死者が19人、負傷者は20人（19.6%、7.0%）となっている。

(3) 月別の死者数

死者を月別にみると12月が16人と最も多く、次いで1月が15人、4月が12人となっている。

(4) 年齢別の死者数

死者を年齢別にみると次のとおりであり、61歳以上が全体の5割以上を占めている。

区分	0歳～20歳	21歳～30歳	31歳～40歳	41歳～50歳	51歳～60歳	61歳～70歳	71歳以上	不明
件数	6	3	9	4	13	17	44	1
割合	6.2%	3.1%	9.3%	4.1%	13.4%	17.5%	45.4%	1.0%

(5) 死因

死者を死因別にみると火傷22人（22.7%）、自殺22人（22.7%）、一酸化炭素中毒・窒息26人（26.8%）、打撲・骨折0人（0.0%）その他・不明27人（27.8%）となっている。

6. 火災種別ごとの出火件数及び損害額等

火災種別ごとの出火件数及び損害額は次のとおりである。

() 内は対前年比

火災種別	件数	損害額千円	焼損面積	焼損棟数	り災世帯数	り災人員
建 物	1,176 (△1.8%)	3,602,910 (△18.4%)	床面積 54,933 m ² (21.3%) 表面積 11,449 m ² (187.4%)	1,679 (0.1%)	1,074 (△1.5%)	2,664 (2.0%)
林 野	64 (14.3%)	4,713 (348.0%)	854 a (73.6%)	—	—	—
車 両	240 (8.1%)	94,865 (△27.6%)	—	—	—	—
船 舶	2 (△33.3%)	3,250 (51.3%)	—	—	—	—
航空機	0 (—%)	14 (△99.7%)	—	—	—	—
その他	806 (5.4%)	122,881 (276.9%)	—	—	—	—
(爆発)	3 (△25.0%)	4,758 (326.3%)	—	—	—	—

※ H7.1.1 から火災の定義に爆発現象が加わった。爆発の件数は出火件数の内数。損害額は外数。
H7.1.1 から建物の焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。